

# 土・まち・みどり

通信第24号

2006. 7. 28

発行 土とみどりを守る会

連絡先 3718-8558 (柳島)

CONTENTS ◆ 5月のつどいミニ園遊会レポート ◆ おくさわ今と昔 ◆ 奥沢2丁目の風景の変化について  
◆ グリーンサムのお庭拝見 ◆ 土とみどりを守る会とは ◆ 会からのお知らせ

## 土とみどりのミニ園遊会

### 5月のつどい

5月20日はお天気の回復が予報より早まって、会場の準備を始める頃には青空が拡がり水溜りも消えました。

土とみどりを守る会の第4回総会を終って、11時30分くらいよミニ園遊会の始まりです。お集まりの皆様の関心は売店で、クッキー・おみそは忽ち売り切れ。おまんじゅう・ケーキ・梅干に人気が集まります。花の苗は、前日の大雨と当日の強い日ざしで萎れ仕入れ時の値打ちは無くなってしまいましたが、勢いのいいものから売れていきました。

中国茶の試飲・販売は、中国茶研究家として知られる平野久美子理事の解説付きでなかなかの人気でした。御提供頂いた頒布苗はお店に無いものが多く、愛好家に買われていきました。強風にあおられてテーブルの parasol が飛んでしまったり、強い日差しで折角の手づくりケーキが溶け出したり、予想外の出来事もありましたが、丸テーブルを囲んで顔見知りの方も初めての方もお話がはずみ雰囲気盛り上がりしている楽しそうな様子が見られました。

パネル展示の昔の奥沢の写真に目を留められる方も多く、青空の下での小さな園遊会は大盛況で賑やかな催しになりました。不馴れなことで数々の失敗があり御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

土地を快く使わせて下さった地主さん・売店ボランティアの方々・会場周辺のお宅、そして御参加下さった皆様 ありがとうございます。(柳島)



# おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。今回は長くお住まいの方のお話のみにさせていただきました

## 昭和四年夏の終わり

奥沢2丁目 武村 仁

昭和四年(1929)の夏の終わりに今の場所に、大橋近くの駒沢練兵場に隣接した内務省の二階建ての官舎から引っ越してきた。

東京府荏原群玉川村大字奥澤452番地である。父、知雄32才、母、音羽25才、祖母、タネ62才、和子、3才、典子、1才、そして5才に近くなった私の六人家族である。

私は2トントラックの荷台の一番前に坐って砂利道をゴトゴトとやって来た。随分と遠い田舎に来たものと思った。今の感覚で言えば、小田急の秦野くらい迄行った感じである。全く武蔵野のど真ん中といったところで、線路向うの北西には林というより森に近い森林があって山鳩が鳴き、空にはトンビや鷹が舞っていた。門の前や敷地の西側は、草茫々の原野である。敷地の北側は目蒲電鉄二子玉川線の開通間近の線路で、この年の十二月末近くに二子玉川から大井町まで全線が開通して大井町線と呼ばれるようになった。

電車は勿論一輛だけの編成で、ボギー車ではなく、車は四個、ドアは手動で開け閉めし、パンタグラフ一個のほかに二連のポールを屋根に乗せていた。ポールで走る姿は見た事はなかったが、二子玉川駅の方で使うのだと聞いた事がある。

定員64名と車体の左端に書いてあった。何年か経って、自動でドアが開閉するようになった時は、車輛の前後の運転席の窓の右側の下に『ドアエンジン装置車』と書いてあった。

大井町の次の下神明は「蛇窪」、戸越公園は「戸越」、旗の台は「東千束」、北千束は「池月」、緑ヶ丘は「中丸山」という駅であった。

緑ヶ丘が一番近い踏切の北東には底なし沼があって、大雨の度毎に線路の土手が崩れ、その都度二三日は不通になった。古いレールを打ち込んでいたが、何十本

打ち込んだか分からない程沢山のレールが櫓を組んで打ち込まれた。当初、「中丸山」の駅はこの辺に作る案もあったとの事である。

北側の今の碑文谷の方向の碑衾町の谷畑台地まではずっと低地で、九品仏の池を源とする九品仏川は台風の度に溢れ、大きな湖水の様相を呈した。川はかなりひの溪谷で、目高や鮒、沢蟹は沢山居た。

庭には、立ち漕ぎの二連のブランコと滑り台があった。前の砂利道の両端には溝が掘られていて、門の所は板が渡されており、側にはゴミ箱が置かれていた。道路に立つと、晴れた日には西に富士山が見え、太陽は大岡山の工大の台地から昇った。平屋の縁側からは、夏は丸子多摩川の花火を見る事が出来た。

自由が丘方面に向っては「海軍村」と呼ばれ、海軍の将校の家がかなり点在していた。また、線路の北側は、ドイツ村と呼ばれていた。

ここに引っ越してきてから何年もの間、毎晩、狼の遠吠えを聞いた。父や母は「今時、東京に狼がいるはずがない。犬の遠吠えだ」といつていたが、タネお婆さんは「知雄はああいうけれど犬ではない。あれは狼だ。仁！夜は一人で外へ行ってはいけない」と私には言った。あれから七十何年も経って、碑衾町の台地(今の自由が丘三丁目)に日本狼を飼育していた人がいたことを知らされ、感無量の思いをした。

何年も経って、分かった事がもう一つあった。

裏の電車が開通して、かなり、かなり遠くから、ガタガターン！ガタガターン！という線路の繋ぎ目を渡る電車の音が聞こえるのに、行き過ぎると急に聞こえなくなるのが、子供心に不思議でならなかった。十何年経って高工(今の大学)に通うようになって、それが「ドップラー効果」というものだと知って感激したものである。



●奥沢・自由が丘あたりの古い風景が写っている写真をお持ちの方はご連絡下さるようお願いいたします。

●このシリーズへの御投稿をお待ちしております。お話を開かせ下さる方にはうかがいに参ります。

(西野定正氏提供)

# 奥沢2丁目の風景の変化について

永松栄

永松栄さん

地域デザイン研究所代表取締役・早稲田大学芸術学校講師

2004年に「奥沢土とみどりのまちづくり宣言」を世田谷区に提出する際、区からコンサルタントとして派遣され、奥沢の環境についてくわしく調査なされて今後の望ましいまちの姿を提言して下さいました。今回その一端を寄稿していただきました。

## ●奥沢2丁目の緑の多い風景

私のように他所から来た者が、奥沢2丁目を歩くと緑の多さに驚かされますが、少しその理由を数字で確認してみようと思います。

空から航空写真を撮って緑の部分の面積を測り、それを地区の面積で割った数字を地区の「緑覆率」といいますが、奥沢2丁目の緑覆率は13パーセントで、公園がないことを考えると高い数字です。住民の方々が緑をよく育てていることで緑被率を保っていることがわかります。

一方、道路の中央に立ち道路の進行方向の写真を撮って緑に写っている部分の面積を測り、画面面積に対する割合を計算したのが「緑視率」です。それから、道路が敷地に接する長さの延長の中で、生垣などの緑に接している部分が占める割合を「沿道緑化率」といいます。奥沢2丁目の三分一の地区は沿道緑化率が50パーセント以上になっていて、行き交う住民の方々に緑の豊かさを感じさせています。これは、かなり自慢できる水準です。

緑の絶対量を示す一つの指標が「緑被率」だとすると、緑の感覚的な量を示す指標が「緑視率」だといえます。奥沢2丁目では沿道緑化率が高いので、この緑視率も高くなっていると推測できます。それと、2階建てを基調とする家並みが緑を引き立たせていることが、緑視率を高めていると考えられます。

## ●奥沢2丁目の風景の変化

ところで、ここまで使った数字は2001年のものですが、その前のものと比較してみると、考えさせられるものがあります。

まず、緑被率ですが1997年に15パーセントあったものが13パーセントに減っているのです。測量上の誤差があるかもしれませんが、奥沢2丁目の25ヘクター

ルの中での2パーセントは、5000平方メートルに当たり、これは1年あたり1250平方メートルの緑が減り続けていることに相当します。

それから一戸建住宅の敷地の中でのお庭などに使われる空地の比率は、1991年の66パーセントから54パーセントに減っています。

## ●緑が減る原因と対策

奥沢2丁目の住宅地は、代替わりの時期にさしかかっていて、住んでいる方が必要に応じて住宅を少し大きめに建替えたり、なんらかの都合で住宅を不動産業者に売却されて不動産業者が敷地をいくつか分割して新たな住民がそこに家を構えるといったことが起こっています。これ自体は仕方のないことといえるかもしれませんが。

しかし、年間10から20棟ほどの住宅の新築でこれだけ緑や空地が減るのですから、新しく住宅を建てる時に以前とかなり違う形になることがわかります。

こうしたことを直視すると、奥沢2丁目の風景の記憶のもとになっている「景観木」をなるべく残してもらうとか、最低限の沿道緑化の配慮を忘れないようにしてもらうことが必要になります。同様に、空地の絶対量の減少はある程度しかたないとしても、その中で環境を育むために必要となる透水面（雨水が土に浸透できる地面）を確保してもらうことなどが必要になります。

日本の人口が昨年からはじめましたが、住宅地でも今後は今まで以上に環境、安心、安全が重視されるようになると思います。以前から、土とみどりを守る会の方々が実行されていたことが社会経済的にも評価され、いよいよ大事な意味を持つ時期にきているような気がします。これまでの活動を継続して、いっそうのご活躍を期待します。

## グリーンサムのお庭拝見 Vol.2

奥沢2丁目18番地にお住まいの鈴木さんの和風ロックガーデンを訪問しました。道路から入った所に置かれたポリバケツには剪定した枝を入れ、暫くして麻の袋に詰め直して夏は3ヶ月冬は6ヶ月置いてから篩って、土の部分は植木鉢に枝は庭に撒くとのこと。

鉄扉を入ると東に向って丸や四角の大小の岩が所々段々に重なったりして並んでいます。それに沿って小道が曲り、その右側に又岩が並んでいます。50年以上前にお父様の故郷の神社から頂いた4本の桂が3階まで届きそうです。その下の岩の間に鉄砲百合・丁字草・狸々袴・一人静・ほととぎす・鳴子百合・えびね・ふっき草・岐阜蝶が好むという寒葵。枯れてしまった2本の木は上部を切り落とし、小鳥の巣箱や餌の台になっています。中央の岩の間には這松・紫蘭・しゃが・下野草・日光きすげ・雲間草・エーデルワイス・伊吹じゃこ

う草・浜なす・鈴蘭・白雲木・萼うつぎ、長女の結婚式の日の花束を作って下さった花屋さんで買い求めたおだまき。湿地の花畑を作ろうと、お父様が大きな甕と石の流しを埋め込まれた所は名残のあるあやめが一株、いつか水芭蕉を植えてみたいとか。子供達が小さい頃クリスマスを楽しんだもみの木、藪蘭・はまゆう。奥様が植えられたデュランタ・すみれ・今頃咲いたこぶし・にせアカシヤ。枯れた木を切り分け森の倒木風に置かれています。茸が生えていました。高い山の奥深くにいるような気分になります。

お忙しくて十分に庭の手入れができないのが残念そうですが、「後は蛇と蛙がいれば満足」と冗談も。お父様がお庭を作られた頃、春に一齐に花が咲く様子はそれは見事だったそうです。裏のマンションの一角に奥様が大好きというバラが植えられた木の樽が8個。沢山の岩と思い出、愛情溢れるお庭でした。(立花)

## —土とみどりを守る会とは—



土とみどりを守る会は、世田谷まちづくりファンドの助成を得て1998年から活動を始めました。その後会員制に移行し、年間1口1000円の会費によって運営しています。

会の活動は●奥沢の緑豊かな住環境を維持するために、世田谷区と連携して仕組みづくりを進める

- 年4回の会報発行と年4回の“つどい”
- 2丁目を中心にチェリーセージを配布し、まちなみに彩りを添える
- 立派な樹木・風格のある建物を推奨して銘板をつける
- 奥沢グリーンマップを作成する

等々の従来の活動に加え、今年度は

- 会員の皆様が会にどのような活動を求めるかをアンケートで具体的にお答え頂き、御希望に添うような活動を行う。

このような活動を通して知人が増え、楽しみながら奥沢の土とみどりが守られることを願っています。

## 会からのお知らせ

- 毎年恒例の緑を訪ねるつどいは、今年は近くの目黒区碑文谷を探訪する計画です。日程などは後日チラシ・会の掲示板でお知らせしますからどうぞ御参加下さい。
- 4月に発行を予定していた奥沢グリーンマップの完成が大幅におくれていますが、8月には出来上がる予定です。

- 土とみどりを守る会では、会員になって下さる方・お力を貸して下さる方のお申し出を心からお待ち申し上げております。連絡先にお電話下さい。

### 土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126  
世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558